

「学びのつながりと積み重ね 主体的に取り組む授業の創造」

～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ、

音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

研究主題

「音楽的な見方・考え方を働かせ、

音楽と豊かに関わる児童の育成」

～個の思いや考えを基にした

協働的な学びを通して～

1 主題設定の理由

これからの学校には、一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し多様な人々と協働しながら様々な社会的変化をも乗り越え、豊かな人生を切り拓き持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。そのためには、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる授業改善が必要である。音楽科においても「自分らしく感じ、考え、他者とつながる」学びの在り方が問われており、一人一人の音楽に対する思いや考えを丁寧に引き出し、他者と共有しながら音楽表現を深める協働的な学びの重要性が高まっている。このことから、個の思いや考えを基にした協働的な学びの充実を図る授業改善を行えば、音楽的な見方・考え方を働かせた創造的な学びが深まるであろうと考えた。協働する学びを通して自分に自信をもち、音楽と豊かに主体的に関わろうとする児童の育成を図りたい。

そこで、本研究では、児童が、音楽的な見方・考え方を働かせ、自分の思いや表現意図

に自信をもちながら、音楽に対する思いや考えを表現し、仲間と交流・協働する学びを通して、音楽のもつ多様な価値に主体的に関わる力の育成を目指す。

2 研究の仮説

仮説1

音楽の要素と曲想との関わりに着目し、音楽表現を工夫することにより、児童がより深く音楽活動を楽しむことができるであろう。

仮説2

協働的な学びの場において、子ども同士の対話を充実させることにより、主体的に音楽に関わり、個の学びが深まるだろう。

3 研究内容（授業実践）

（1）思考し表現する楽しさを味わえる音楽活動を大切にした指導

（2）個の学びと協働的な学びの一体的な充実

4 結論

児童が、自分なりの思いや意図を言語化する場面を意図的に取り入れ、他者の意見や表現を聴きあい、比較したり共感したりする活動を積み重ねることで、音楽に対する理解がより深まる様子が見られた。これにより、児童は音楽に対して主体的に関わり、自分らしく、より深く音楽活動を楽しむことができた。

第一部会 佐倉市臼井地区

佐倉市立間野台小学校 内田 典子

佐倉市立王子台小学校 會田 智恵子

「学びのつながりと積み重ね 主体的に取り組む授業の創造」

～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ、
音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

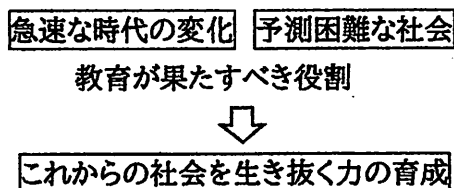
1 研究主題「音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽と豊かに関わる児童の育成」

～個の思いや考えを基にした協働的な学びを通して～

2 研究主題設定の理由

(1)教育の今日的課題から

現代の社会は、予測困難な変化の中で多様な価値観が共存し、人々が互いに認め合いながら共に生きていく力がこれまで以上に求められている。そのような中で、子どもたちが音楽を通じて自らの思いや考えを表現し、他者と共有・協働する経験は、豊かな人間性や社会性を育むうえで重要な意味をもつ。



このような時代の中、学校教育には、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構築するなどして新たな価値を生みだしていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。音楽科においても「自分らしく感じ、考え、他者とつながる」学びのあり方が問われている。音楽には、感覚的な楽しさや情緒的な豊かさを味わうと同時に、音や音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などに関連付けて、「音楽的な見方・考え方」を働かせることが必要である。

こうした背景から、一人一人の音楽に対する思いや考えを丁寧に引き出し、他者と共有しながら音楽表現を深める協働的な学びが重要であると考え、そこで本研究では、児童が音楽的な見方・考え方を働かせ、自分の思いや表現意図に自信をもちながら、他者と響き合い、学びを深め合う過程を大切にする授業改善によって、音楽と主体的かつ豊かに関わる力の育成をめざす。

〔授業づくりの視点〕

- ◇個の思いや考えを引き出す工夫
- ◇思考し表現する楽しさを味わえる音楽活動 ⇒
- ◇協働的な学びの中での対話の充実
- ◇探究的で創造的な学びの基盤形成

一人一人の表現意図や感じ方を起点にしながら、仲間と関わり、音楽の意味を深める学びをつくる。

[授業改善のポイント]

- 自分の関心や問いに基づいた学びから出発し、協働する中での思考と言語化を促す。
- 仲間との対話によって視野を広げ、より創造的な思考へと発展させる。
- 自分のやり方や価値観を大切にしつつ、他者と協働する経験を通じて、異なる考えを理解し調整し合いながら共にゴールをめざす力を育てる。

(2)児童の実態から

今年開校 41 周年の王子台小学校と開校 45 周年の間野台小学校がある白井駅南側周辺地域は、国道 296 号線のバイパスとして開通した水道道路沿いの新興住宅地域である。東京および周辺都市のベッドタウンとして発展し、人口は近年ほぼ安定してきた。学校の周辺には川や雑木林・畑や水田などがあり自然と触れ合ったり季節の変化を楽しんだりすることができる。

王子台小学校は、令和5～7 年度は、県指定のプログラム「福祉教育推進校」の指定を受け、「地域と連携し、共生できる福祉教育」をテーマとし、「みんなが暮らしやすい町・社会について考える素地」を養う研究に取り組んでいる。

間野台小学校は、令和 6 年度に佐倉市教育委員会研究モデル校(総合的な学習の時間)の研究に取り組み、印旛地区教育研究会 総合的な学習の時間秋季研修会を行った。さらに令和 7 年度は、千葉県教育委員会が示している『『思考し、表現する力』を高める実践プログラム』を基に、生活科と総合的な学習の時間の研究を通して、「日本発ウェルビーイング」に基づき、探究的な学習を実践している。

両校ともに保護者の教育に対する関心は高く、学校にも協力的である。また、地域のお祭りやイベントに参加したり、スクールガードボランティアによる登下校の見守りがあったりと、地域とのつながりも保たれている。

児童は明るく素直な子が多く、学年を越えて協力し合ったり助け合ったりしながら生活を送ることができている。

音楽活動については、どの学年も音楽を通して表現することに積極的に取り組み、毎日の朝の会の時間には、各教室に活気のある歌声が響いている。しかし、個々の創意を生かした表現の工夫をする学習に対しては、自信がなかったり苦手意識をもっていたりする児童も少なくない。

児童が自ら課題に取り組むことができるようにするには、一人一人の音楽に対する思いや考えを丁寧に引き出し、他者と共有しながら音楽表現を深める協働的な学びが重要であると考え。そこで、個別対応の資料や掲示物の提示、思いや意図をくり返し試す時間の確保、個に合った練習方法を自分で選択できるようにするなどの支援を行うことで、誰もが自分らしく、自分の思いや願いを音楽で表現する楽しさや喜びを味わうことができるようにしたい。

また、音楽表現に対する思いをもち、意欲を継続させ、意図した表現に近づくことができるように、音楽の特徴を言語化したり、補助的に ICT を使ったりして、自分に合った方法を選択しながら、友だちと音楽に対する思いや意図を共有する協働的な学びを大切にすることで、音楽と豊かに関わることができる児童の育成をめざす。

3 研究仮説

〔仮説1〕

音楽の要素と曲想との関わりに着目し、音楽表現を工夫することにより、児童がより深く音楽活動を楽しむことができるであろう。

〔仮説2〕

協働的な学びの場において、子ども同士の対話を充実させることにより、主体的に音楽に関わり、個の学びが深まるだろう。

4 研究の実際

(1)研究の手立て

〔仮説1〕について

手立て ①

個の思いや考え方を引き出す工夫によって、感じ取ったことと聴き取ったことを言語化し、思いや意図と表現が結びついたことを児童が実感できる音楽活動を設定する。

〔仮説2〕について

手立て ②

個々の学びを深めるために様々な学習形態を取り入れ、対話を通して、友だちの多様な見方・考え方を共有できる場を設定する。

(2)授業実践

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| ① 思いを音楽で表そう | (間野台小学校3年生) |
| ② 旋律の特徴を感じ取ろう | (間野台小学校4年生) |
| ③ 音階をもとにして音楽をつくろう | (王子台小学校4年生※指導案等は資料編に掲載) |

授業実践①

第3学年1組 音楽科学習活動案

指導者 内田典子

展開場所 音楽室

題材名 思いを音楽で表わそう

教材 「エーデルワイス」

【本題材で扱う学習指導要領の内容】

A 表現(2)器楽ア、ウ(イ)

〔共通事項〕(1)ア

- ・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素
- 音色・旋律

指導計画(4時間扱い)(本時 2/4時間)

- | | |
|-----|-------------------------------|
| 第1時 | 曲想と旋律の特徴とのかかわりに気づき、主な旋律を演奏する。 |
| 第2時 | 曲想や旋律の特徴を生かした演奏の仕方を工夫する。 |

	いを生かして、タンギングの仕方や息の使い方に着目する。 ・前時に書いた表と比べながら演奏の工夫を考える。	・音程が上がっている所は盛り上がるように強くする。 ・3 段目は 8 分休符を生かしてふわっと切る感じがいい。 ・低い音はやさしい息でタンギングも優しくする。 ・1, 2, 4 段目と 3 段目の違いをだす。 ・「なぜなら」というキーワードを表現の理由を音楽の要素から考えるよう助言する。	
5	○リコーダー1を練習する。	○音程の変化やメロディーの流れを生かして演奏する。 ・低い音や離れた音をきれいに演奏するだけでなく、旋律の流れに気を付けて練習する。 ・音色や響きに気を付けて思いや意図に合った演奏をしている。	
10	○ペアで聴きあい、工夫したポイントが聞き手に伝わったかどうか確認する。 ☆[旋律 音色]	○工夫したポイントをはじめに聴き手に伝えてから演奏する。 ・聴き手は、提示されたポイントについて、アドバイスすることを確認する。	
3	○二つのグループに分けて、聴きあう。	○曲の感じに合った演奏ができているかに着目して聴く。 ・旋律の感じに合った演奏になっているかに気をつけて聴くように助言する。 ・曲の特徴を捉え、思いや意図に合った演奏になっているかアドバイスしている。	
2	○学習の振り返りをする。	○友だちの演奏でよかったところを発表する。	

仮説 2
(手立て②)

技

〈聴取〉

思

〈発言・聴取〉

[仮説1]

〈音楽の要素と曲想に着目する活動〉

「エーデルワイス」

○デジタル教科書の範奏を聴きながら旋律の流れを手の動きで表すことで音程の変化を確認した。



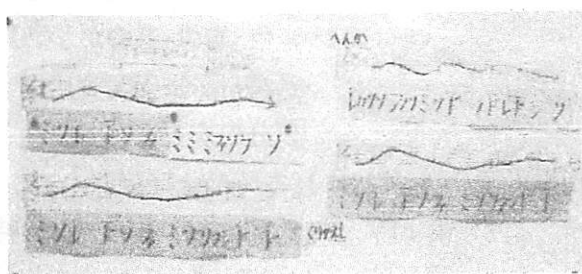
○タブレットのマーカを使って、音符を線で結び旋律の流れを捉えた。



○段ごとに旋律の特徴を書いて比べた。

メロディー	とくちょう
1だんめ	初めからだんだん上がってゆっくり、なめらかになっている。
2だんめ	1段目と同じ音の繰り返し。
3だんめ	山のように上げ下げがたくさんある。うんもある。
4だんめ	初めは高く、それから低くなって最後は真ん中になる。

○1, 2, 4 段目は同じ旋律を繰り返し(似ている)けれど 3 段目は変化していることを確かめた。

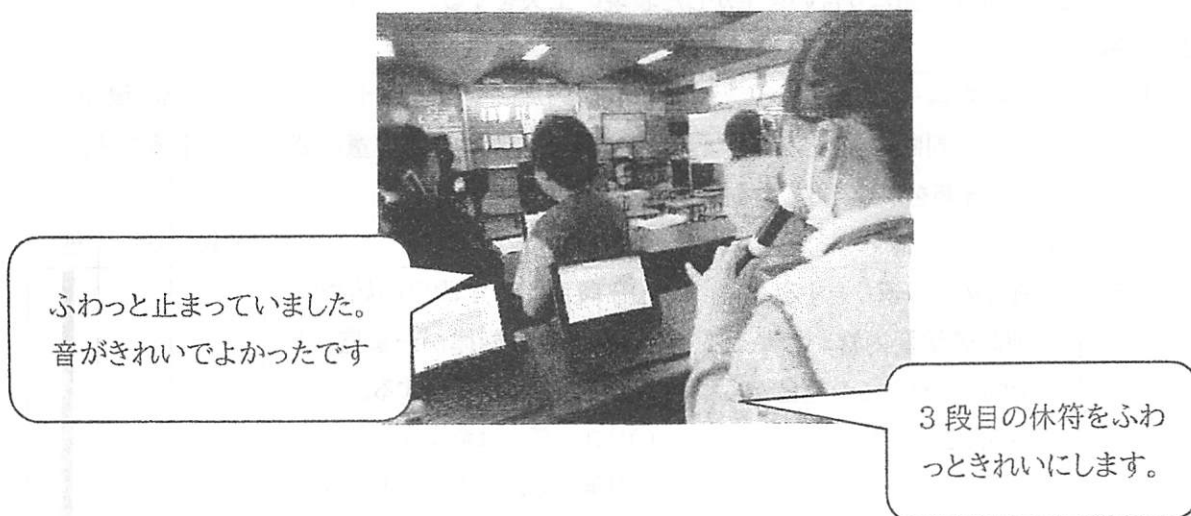


[仮説 2]

〈協働的な学びの場において子ども同士の対話を充実させる〉

○個人で捉えた旋律の特徴を基に、どんな演奏をしたいかペアで伝え合い、演奏を聴きあった。

始めに、工夫したことを伝えてから演奏すること、聴いた人は演奏した友だちが伝えたことについてアドバイスすることで語彙が増えた。



授業実践②

4 学年 1 組音楽課学習指導案

指導者 内田典子

展開場所 音楽室

1 題材名「旋律の特徴を感じ取ろう」

教材 「いいことありそう」「風のメロディー」

【本題材で扱う学習指導要領の内容】

A 表現(1)歌唱ア、ウ(ウ) (2)器楽ア、ウ(ウ)

【共通事項】(1)ア

・思考判断のよりどころとなるおもな音楽を形づくっている要素

音色・旋律・音のかさなり

・音符・休符・記号や用語

8 分の 6 拍子

指導計画(4 時間扱い)(本時4/4 時間)

第 1 時 「いいことありそう」旋律の特徴を感じ取り、主な旋律を歌う。

第 2 時 「いいことありそう」主な旋律と副次的な旋律を合わせて演奏し、歌い方を工夫する。

第 3 時 「風のメロディー」8 分の 6 拍子や旋律の特徴を生かした歌い方や演奏の仕方を工夫する。

第 4 時 「風のメロディー」歌とリコーダーの旋律が重なり合う響きを感じ取りながら演奏する。

本時の指導(4/4)

(1) 本時の目標 旋律の重なり合いを生かした表現の工夫をする。

(2) 本時の展開

時配	○学習内容・学習活動 ☆[思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素]	○教師の発問や働きかけ ・めざす(予想される)児童の姿 (記述・工夫・発言例)	評価の場面 〈評価方法〉		
			知技	思	態
5	○前時の振り返りをする。 ・前時の学習内容がわかる掲示物や、友だちの発言からわかったことを振り返る。	○3 段目から 4 段目の始めに向かって、旋律が一番盛り上がることを確認する。 ○リコーダーは歌よりもゆったり伸ばしたリズムで重なっていることを確認する。			
3	○本時の目当てを確認する。				
	曲の感じを生かした演奏をするにはどのような工夫をすればよいだろう。				

3	○主旋律を斉唱する。 ☆[旋律]	○8分の6拍子の流れるような感じと旋律の緩やかな音の変化についてふりかえる	
10	仮説2 (手立て②) ○グループで曲の感じに合った演奏になるように練習する。 ☆[音のかさなり 休符]	・3段目音がだんだん高くなって盛り上がるんだった。 ・4段目が一番高いね。 ○交代して聴きあい旋律の流れを生かした演奏になっているかどうか伝え合うように助言する。 ・休符をしっかりとらないと続けない。 ・歌の人数をもう一人増やしたらどうか。 ・思いや意図を友だちと共有しながらどのように表現するかについて伝え合っている。	
10	○発表する。 ・歌とリコーダーが曲に感じに合った演奏になっていたかを確認めながら聴くように助言する。	○友だちの発表を聞いて、工夫したいところや変えたいところをカードに記入する。 ・歌とリコーダーの音の強さがちょうどよかった。 ・3段目から盛り上がるところがよく伝わった。 ・休符をそろえる合図があった。 ・互いの歌声やリコーダーの副次的な旋律を聴いて、声や音を合わせて演奏している。	恩 〈発言・聴取〉
10	仮説2 (手立て②) ○カードを基に自分たちの演奏を振り返り、よりよい演奏になるように話し合う。	○他のグループの演奏を聴いて取り入れたいことをカードに記入し、表現したことを修正して演奏する。 ・休符をそろえる合図は必要だ ・もっとなめらかに歌えると思う	技 〈発言・聴取〉
4	○学習の振り返りをする。 ・自分たちが表現したいと思った演奏ができたか、聴いている友だちに伝わったかを発表する。	○グループごとに自分の思いを伝え合ったり工夫するために話し合ったりしてきたことを次の学習の意欲付けをする。	態 〈観察・記述〉

[仮説1]

〈音楽の要素と曲想に着目する活動〉

「風のメロディー」

- タブレットを使って主旋律と副旋律流れ重なりを捉えるために、主旋律と副次的旋律を色別のマーカーを使って線でつなぎ、旋律がどのように流れているかを可視化した。

メロディー	とくちよう
1だんめ	始めに急に音の高さが上がっている。次は下がる
2だんめ	途中まで1と同じだんだん高くなってそのまま高い音のまま
3だんめ	最初休みがある。でこぼこしている。
4だんめ	途中まで1, 2, 4は同じ4は2と全部同じ

私は、風のメロディーの3段目はすごくさらさらして聞いていてすごく落ち着くなと思いました。なぜなら、音が上がっていくとき、1つずつ上がっていくからです。

3段目だんだん盛り上がっていくような感じでした。4分休符があつてからだんだん音が高くなるからです。



3段目のメロディーが1段目のメロディーとにている、1段目と3段目は下から上に向かっていくようで、太陽みたいな感じがします。

リコーダーは、音程があまり変わらなく雲がながれているみたいでなめらかな感じがしました。それに比べて歌は下から上に向かって太陽みたいでした。

[仮説2]

〈協働的な学びの場における子ども同士の対話を充実させる〉

- カードに記入した「工夫したいこと」をペアで伝え合った。
- グループで曲に合った工夫について相談し練習した。
そのとき、交代して聴きあい、工夫したいことが伝わるかどうかを確認しながら練習した。
- グループ発表を聴いた後、自分たちの発表でよくしたところを伝え合い、もう一度演奏した。



実践1, 2の成果と課題

[仮説1]

- CDを聴いたり歌ったりしながら、旋律の流れを手の動きやタブレットで楽譜を線で結んだりする活動を通して、曲全体を旋律がどのように流れているか。曲の山はどこかなど音楽の構造について、音の高さやリズムなど音楽の要素と結び付けることができた。それにより、思いや意図が、楽譜と具体的につながり、目的を持って音楽活動を楽しむことができた。

[仮説2]

- 個人からペア、グループへと段階的に思いや意図を伝える場を広げることで、言葉によるコミュニケーションが深まり、互いの思いや意図を理解したうえで、よりよい演奏にするために繰り返し試すことができた。
- グループ発表を聴きあい、感想を伝え合うことで、良いところを認め合い、自分たちの演奏に生かそうとする気持ちが高まった。それにより、どのグループも自分たちの表現したい演奏に向かって取り組み、思い通りの演奏ができたという満足感を得ることができた。

課題

- ▲リコーダーで思いや意図を伝える演奏をすることは技能面で難しさを感じた。技能面を伸ばすだけでなく、楽器を選択することも視野に入れた方がよかった。
- ▲タブレットの活用は、言葉によるコミュニケーションが苦手な児童が思いや意図を伝える手段として有効であったが、時間がかかってしまうことがある。プリントと併用し、話し合いや演奏を実際に試す時間を確保する必要がある。

実践3の成果と課題

[仮説1]

- 題材の導入で、日本の曲を聞いて「日本らしい」と感じるのはなぜかという探究的な課題に取り組んだ。児童は3種類の日本の音楽に使われている音階を調べたり、日本の様々な曲を聞いてどの音階なのかを分類したりする活動を通して、音階の働きが曲の雰囲気の特徴付けていることを捉え、その良さを理解した。そのうえで、自分がつくりたい音楽の旋律づくりに取り組んだことで、どの児童も目的意識を持って意欲的に音楽づくりを楽しむことができた。
- 音階を使って日本らしい音楽をつくる活動中で、音のつなぎ方の工夫やまとまりを意識した曲づくりを進めたことで、自分が表したい感じの旋律をつくる喜びを味わいながら、演奏活動を楽しむことができた。

[仮説2]

- 自分がつくった旋律を互いに聴きあい、感想やアドバイスを伝え合うことによって、自分と友だちの旋律を比較しながら旋律の上がり下がりについて考えたり、旋律の工夫を考えたりした。その結果、自分の作品がよりよいものになったと実感することができた。
- 個々の旋律をつなげたり重ねたりしてグループの曲をつくる場面において、互いの思いや意図を言葉で伝え合い、実際に音で試すことをくりかえす活動を行った。その結果、どのグループでも思考して表現しようとする様子が見られ、グループ発表での演奏により、自分たちのイメージに合う曲に仕上げたという満足感を得ることができた。

課題

- ▲児童が対話をしながら試行錯誤を重ねる活動に十分な時間を確保するには、曲を作るためのプログラミングソフトの説明や注意事項などを、能率よく理解させる必要がある。わかりやすい掲示資料や説明動画などを用意し、必要に応じて児童が利用できるようにするとよかった。

7 研究のまとめ

本研究では、児童一人一人の思いや考えを尊重し、それらを基にした協働的な学びについての研究を行った。

授業実践においては、児童が音楽的な見方・考え方を働かせ、自分なりの思いや意図を言語化する場面を意図的に取り入れた。そのうえで、他者の意見や表現を聴きあい、比較したり共感したりする活動を積み重ねることで、音楽に対する理解がより深まる様子が見られた。これにより、児童は音楽に対して主体的に関わり、自分らしく、より深く音楽活動を楽しむことができた。

自分の考えを言語化することに難しさを感じるような場面があったので、思考の整理を支援するワークシートの工夫をさらに研究していきたい。

資料編

第4学年1組 音楽科学習指導案

指導者 會田智恵子

展開場所 音楽室

- 1 題材名 「音階をもとにして音楽をつくろう」
教材 表現（音楽づくり）「さくらさくら」陰旋法または都節音階
表現（音楽づくり）「ソーラン節」陽旋法の一つまたは民謡音階
表現（音楽づくり）「沖永良部の子もり歌」琉球旋法

【本題材で扱う学習指導要領の内容】

A表現（3）音楽づくりの事項 ア（イ）、イ（イ）、ウ（イ）

〔共通事項〕（1）ア

- ・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素
旋律、音階

2 題材について

（1）題材の目標

○さまざまな音階の特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、反復などの音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。 （知識及び技能）

○旋律や音階のもととなる音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや、音階による旋律の雰囲気の違いを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、音楽づくりの発想を得たり、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりする。

（思考力、判断力、表現力等）

○日本に伝わる音楽の音階をもとにした旋律づくりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組み、日本の音楽や音階に親しむ態度を養う。

（学びに向かう力、人間性等）

（2）題材観

本題材は、日本の音楽「さくらさくら」「ソーラン節」「沖永良部島の子もり歌」の音階をもとに、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもち、その思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付けることがねらいである。

これまでに児童は、音やフレーズのつなげ方の特徴に気付きながら即興的に音を選んで短

い旋律をつくり、自分の旋律と友達の旋律をつなげたり重ねたりしてグループで一つの曲をつくる学習や、くり返しや変化を使ってまとまりのあるリズムをつくる学習を行っている。本題材は、それを生かして、もとにする音階を選んで一人4小節（16拍）の旋律をつくり、それを友達とつなげたり重ねたりして、グループの音楽を完成させる。音のつなげ方や組み合わせなどを工夫する活動を通して音楽のよさや面白さを味わわせるとともに、互いの演奏を聴き合うことで、それぞれの音階の違いを感じ取り、音楽を特徴付ける様々な音楽の要素の中で、音階が大きな役割を果たして曲の雰囲気をつくっていることを、自らの体験から学ぶことができるようにしたい。〔個々の旋律をつくる学習活動は、演奏技能にとらわれずに試行錯誤をしながら自分の思いに合った旋律がつけられるように、タブレットPCで行うこととする。使用する楽器は、音階ごとの雰囲気の違いを捉えやすくするために、鍵盤ハーモニカを用いることとする。〕

この学習は、中学年・高学年の、音を音楽へと構成することを通して全体のまとまりを意識した音楽づくりをする学習や、中学校の表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復・変化・対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくる学習につながる。

（3）児童の実態（省略）

（4）指導観

本題材は、日本に伝わる音楽の音階をもとにした旋律づくりの活動が主体となる。児童が主体的に音楽づくりに取り組むためには、自分がどのような音楽をつくりたいのかというイメージを明確にもつことが必要であり、そのイメージが児童個々にとって魅力的なテーマに基づくものであることが重要である。

そこで、題材の導入時に、「さくらさくら」「ソーラン節」「沖永良部島の子もり歌」を歌ったり聴いたりして、「なぜ日本的な感じがするのか」を考えたり話し合ったりし、それぞれに使われている音を調べる活動を取り入れる。そして、日本の旋律が日本的な雰囲気がするのは使われている音階の働きによるものであることを知る。その後、それぞれの音階と同じ曲を多数用意し、クイズ形式でどの音階の曲なのかを分類することで、それぞれの音階の特徴をとらえ、そのよさを理解した上で、自分がつくってみたい音楽の音階を選択して活動に入るようにする。

旋律づくりにおいては、演奏技能に左右されることなく、音のつなぎ方を視覚と聴覚で確認しながら自由自在に試すことができるように、タブレットPC〔プログラミングソフトscratch〕を使用して進めることとする。それぞれの音階のファイルには、使用してよい音のみのブロックを用意し、16拍分の伴奏を入れておく。このように条件を設定しておくことで、児童が見通しをもって活動できるようにする。また、「くり返しや変化」を使ってまとまりのあるリズムづくりをした学習を想起させ、scratchに入っているくり返しのブロックを利用してよいことを知らせ、まとまりを意識した旋律づくりができるようにする。この場面では、自分がつくった旋律を互いに聴き合い、条件の中でつくることができるのかを助言し

合いながら、自分と友達の旋律を比較し、旋律の上がり下がりについて考えたり、自分の旋律の工夫を考えたり、自分の作品をよりよいものに修正したりすることができるようにする。

自分がつくった旋律の記譜については、拍を記した枠を用意し、階名での記入を基本とするが、児童の実態に即して自分のわかりやすい方法で記録をすればよいこととする。グループで旋律をつなげたり重ねたりする時も、自分がわかるように工夫をして記録をしてよいこととし、話し合い活動や演奏を通しての交流を深められるようにする。

PC上でつくった旋律を実際に楽器で演奏する場面において、技能的に心配な児童については、使用しない音の鍵盤に赤いシールを貼り、弾く鍵盤をゆっくりガイドするなどの支援をすることによって、次の段階のグループ活動に自信をもつてのぞめるようにする。また、拍の流れによって演奏することが難しい児童には、PCの音源と合わせて演奏をしたり友達の手拍子に合わせて練習したりするとよいことを助言する。

最終段階では、同じ音階を選んだ児童同士でグループをつくり、個々の旋律をつなげたり重ねたりする活動に取り組む。その際に、互いにつくった旋律を紹介し合うことによって互いに思いや意図を伝え合い、実際に音で試すことを繰り返しながら表現を工夫してよりよい曲につくり上げていくことができるようにする。留意点としては、まとまりのある音楽にするにはそれぞれの旋律をどうつなげたり重ねたりしたらよいかを考えて工夫することや曲の終わり方の工夫をするとよいことを助言する。また、自然な流れにするために、自分の旋律の音を変化させてもよいことも伝える。グループで仕上げた作品を互いに演奏発表し合い、旋律のつなげ方や重ね方の特徴とそれらが醸し出す雰囲気に関わりに気付きながら、曲全体の構成の工夫や、演奏表現のよさを互いに認め合うことで、自分の作品を大事にする気持ちやつくった人の創造性を尊重する態度の育成を図りたい。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知さまざまな音階の特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付いている。 (音楽づくり) 技思いや意図に合った表現をするために必要な、反復などの音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて演奏をしている。 (音楽づくり)	思旋律や旋律のもととなる音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや、音階による旋律の雰囲気の違いを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、音楽づくりの発想を得たり、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりしている。 (音楽づくり)	態日本に伝わる音楽の音階をもとにした旋律づくりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。 (音楽づくり)

4 指導と評価の計画（3時間）（本時2/3時間）

次	時配	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動 ☆[思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素]	○教師の指導・支援 ・めざす児童の姿	評価の観点 (評価方法)		
				知・技	思	態
第	◎日本の音楽の音階をもとに音楽をつくって演奏をする。					
一 次	第1時	○日本の曲で使われている音階を知り、それらの生み出すよさや面白さから音楽づくりの発想を得る。 ・「さくらさくら」「ソーラン節」「沖永良部島の子守歌」を歌いそれぞれの音楽の雰囲気や特徴について話し合う。 ・さまざまな日本の曲を聴いて、同じ音階ごとに分類をする。 ・それぞれの曲で使われている音階について知り、鍵盤ハーモニカで弾き比べて感じたことを交流する。 ☆[旋律 音階]	○「日本の曲を聴いて『日本らしい』と感じるのはなぜなのかを考えさせ、「ドレミの歌」の音階と日本の曲の音階を比較して、構成音の違いに気付くことができるようにする。 ・日本の音階には使われていない音がある。 ・音階によって感じが変わる。	↓ ①知 〈発言〉	↓ ①技 〈聴取〉	↓ ①態 〈観察・記述〉
	第2時～本時	○もとにする音階を選んで、4小節の旋律をつくって演奏をする。 ・一人一つの音階を選びタブレットPCを使って4小節の旋律をつくる。 ・できた旋律を互いに聴き合ったり鍵盤ハーモニカで演奏したりする。 ・自分でつくった旋律を階名譜にし、鍵盤ハーモニカで演奏をする。 ☆[リズム 旋律 音階]	○音のつなげ方やリズムによる変化を色々と試しながら旋律をつくるように助言する。 ・日本の感じのメロディがつくれた。 ・音階がちがうとやっぱりわたしの曲とは感じがちがうな。			
第 二 次	◎もとにした音階が同じ友達とグループをつくってまとまりを意識した音楽をつくって演奏をする。					
	第3時	○友達の旋律と自分の旋律をつなげたり重ねたりして、グループの音楽としてまとめる。 ・旋律をどのようにつなげたり重ねたりするかを、試行錯誤しながら決める。 ・曲の速さや始め方・終わり方を工夫する。 ・でき上がった曲を互いに発表し合い、それぞれの表現のよさを認め合う。 ☆[リズム 速度 旋律 音の重なり]	○互いの思いや意図を言葉で伝え合いながら進めることを助言する。 ○表現の工夫と曲のまとめ方について着目して聴くように助言する。 ・旋律のつなげ方が自然でよかった。 ・だんだん重ねていったやり方がよかった。	↓ ①技 〈聴取〉	↓ ①思 〈記述・発言〉	↓ ①態 〈観察・記述〉

仮説1
手立て①

仮説2
手立て②

5 本時の指導 (2/3)

(1) 本時の目標 もとにする音階を選んで、4小節の旋律をつくって演奏をすることができる。

(2) 本時の展開

時配	○学習内容 ・学習活動 ☆[思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素]	○教師の発問や働きかけ ・めざす(予想される)児童の姿(記述・工夫・発言例)	評価の場面 (評価方法)		
			知・技	思	態
5	○前時の振り返りをする。 ・前時の学習内容が分かる掲示物を見て、学習したことを振り返る。 ○本時のめあてを確認する。	○3種類の日本の音階に使われる音を復習し、この音階を使用すればその雰囲気曲がつかれることを確認して音楽づくりへの意欲を高める。			
自分がつくりたい感じのメロディにするには、音をどのようにつなげたらよいだろうか。					
15	○つくりたい音楽の音階を選び、どんな感じにしたいかを決めて、旋律をつくる。 ・一人一つの音階を選ぶ。 ☆[音階] ・scratchでの旋律の作り方の説明を聞く。 ・scratchを使用して、4小節の旋律をつくる。 ☆[リズム 旋律]	○どの音階を選んだのかを確かめて、自分がつくりたい音楽を完成させられるように励ます。 ○scratchを使つての旋律の作り方や注意事項をデジタル黒板で提示し、全員が扱い方を理解したことを確認してから個々の活動に入らせる。 ○音のつなげ方やリズムによる変化を、色々と試しながら自分の気に入った旋律をつくるように助言する。 ○繰り返しのブロックやコピーの機能を利用すると効率よくまとまりのある旋律がつかれることを知らせる。 ○一人一人の演奏を聴いて回り、曲の長さが伴奏の終わりのタイミングと合っているかどうかを確認したり、よい旋律がつかれていることをほめたりする。			

仮説1
手立て①

時配	○学習内容 ・学習活動 ☆〔思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素〕	○教師の発問や働きかけ ・目指す（予想される）児童の姿（記述・工夫・発言例）	評価の観点 （評価方法）		
			知・技	思	態
10	○できた旋律を友だち同士で聴き合う。 ・旋律がつくれた人同士でペアをつくり、互いの旋律を聴き合い、感じ取ったことや聴き取ったことやアドバイスなどを伝え合う。 ・友だちからの演奏やアドバイスを生かして、さらに自分の気に入った旋律になるように工夫を重ねる。 ☆〔旋律 リズム 音階〕 仮説1 手立て① 仮説2 手立て②	○「友達のメロディを聴いて感じ取ったことや気が付いたことを伝えましょう。」 ・やさしいメロディで日本の音楽の感じが伝わるね。 ・お祭りの音楽みたいな曲でいいね。 ・沖縄のような雰囲気がするよ。 ・音階がちがうとやっぱりわたしの曲とは感じがちがうな。 ・旋律の動きをなだらかにすると、もっとやさしい雰囲気になると思うよ。 ・自分がつくりたかった雰囲気の曲になった。	① 技 （聴取）		
10 5	○自分でつくった旋律を楽器で演奏をする。 ・自分の旋律を階名譜にする。 （記譜の仕方は自分のわかりやすい方法でよい） ・旋律の動きを矢印で表す。 ・鍵盤ハーモニカで演奏をする。 ・選んだ旋律ごとにピアノ伴奏に合わせて演奏をしてみる。 ○学習の振り返りをする。 ・自分の言葉で学習のまとめを書く。	○技能面で不安がある児童には、使用しない音の鍵盤に赤いシールを貼ったり、鍵盤をゆっくりガイドしたり、手で拍を示すなどの支援をする。 ・反復などの音楽の仕組みを用いてまとまりのある旋律をつくり、鍵盤ハーモニカで演奏をしている。 ○自分がつくりたい雰囲気の旋律がつくれたことを称賛し、次のグループでの音楽づくりへの意欲を高める。			

(3) 板書計画

めあて

自分がつくりたいメロディにするには、
音をどのようにつなげたらよいだろうか。

学習の流れ

- ①音階をえらぶ。
- ②タブレット PC を使って4小節のせんりつをつくる。
- ③つくったせんりつを友だちと聴き合う。
- ④つくったせんりつを階名で書く。
- ⑤つくったせんりつを鍵盤ハーモニカでえんそうする。

じぶんがつくりたかった
感じの音楽になったかな

さくらさくらの音階



ソーラン節の音階



沖永良部島の子守歌の音階



①「さくらさくら」「ソーラン節」「沖永良部島の子もり歌」を歌ったり聴いたりして、それぞれの音楽の雰囲気や特徴について話し合った場面
○「さくらさくら」…やさしい感じ・和風・ちょっと悲しい感じ・心が落ち着く ○「ソーラン節」…お祭りみたいな雰囲気・民謡・元気がでる・体が動き出す ○「沖永良部島の子もり歌」…沖縄の音楽みたい・南の島の方で流れていそう・ちょっと楽しい
②「さくらさくら」が、『なぜ日本的な感じがするのか』を考えたり話し合ったりした場面
○歌詞が日本のことだから○音の高さ・低さ○曲の速さ○音の強さ○伴奏の雰囲気○楽器の音色○旋律の動き・音の上がり下がり○使っている音
③個々につくった旋律を互いに聴き合って、感じ取ったことや聴き取ったことやアドバイスなどを伝え合った場面
○日本の感じになっていい。 ○長さがちゃんとあっている。 ○くり返しをつかっている。 ○まとまりのある感じになっている。 ○最初と最後が迫力満点。 ○和風のリズムがいい。 ○ソーランらしい「タタ」のリズムを使っている。 ○きれいな旋律になっている。 ○やさしい感じでいい。 ○「さくらさくら」みたいになったね。 ○沖永良部島を知らない人でも沖永良部島を想像できると思う。 ○和風の感じになっている。 ○高い音や低い音を使っているのいい。 ○低い音から高くなるのいい。 ○高い音を使って鮮やかな感じにしたらもっといい。 ○音の動きをなめらかにすると「さくらさくら」の感じになるよ。 ○「ウン」（4分休符）を入れたらいいよ。 ○（鍵盤の）手が届く範囲でつくったらいいよ。 ○音をのばすと「さくらさくら」みたいになるよ。 ○最後の音は低い音にした方が終わる感じになるんじゃないかな。 ○最後の音を違う音にした方がまとまるよ。 ○最後の音をちょっと高くするといいね。 ○最後の音を「ラ」にするといいよ。 ○低い「ド」じゃなくて高い「ド」にしたらどうかな。 ○（旋律が）上がって下がるみたいな山のようにしたらどうかな。 ○メロディが伴奏より長すぎだから音を減らしたらいいよ。

○同じ旋律のくり返しだとつまらないから何かアレンジしたらいいのでは？
④互いのグループの演奏を聴いて感想を伝えた場面
○自分たちにはない雰囲気曲の曲になっていてすごいと思った。 ○子もり歌のような感じがした。 ○やさしい感じの曲だった。 ○最初は低い音で始まってだんだん高い音を使っていったのがよかった。 ○リズムがソーラン節みたいで楽しい感じがした。 ○リズムがみんな同じになっていて和風な感じがした。 ○音のつなげ方が自然な感じでよかった。 ○一人一人の旋律が生かされていてよかった。 ○1つ1つの音がはっきりと聴こえてきてよかった。 ○ウン（4分休符）を入れたことで落ち着いた感じになっていた。 ○くり返しを使ってまとまった感じになっていてよかった。 ○最後の音を終わる感じにしていたのがよかった。 ○音が重なっているのがよかった。 ○私たちにはない発想の曲になっていてすごいと思った。

児童の学習の振り返りから ※本研究のテーマに係るもののみ掲載

①友だちとメロディを聴き合い、アドバイスをし合ったことで、どんなよいことがあったか。
○自分の考えにかたよらず、冷静に考えることができた。 ○変なところを直せた。 ○違和感があるところを直せた。 ○高すぎる音や低すぎる音を逆にして、いいメロディに変えられた。 ○アドバイスによっていい音楽がつくれた。 ○よりよい曲づくりになった。 ○伴奏よりも長すぎたのを直せた。 ○いい音楽ができた。 ○旋律がすごくよくなった。 ○なめらかになった。 ○音がつなげやすくなった。 ○まとまりのよい音楽になった。 ○工夫する点が見つかった。 ○前よりいいのができた。 ○きれいな演奏になった。 ○正確に演奏できた。 ○より南国風になった。 ○音のつながりを工夫すれば、まとまりのあるメロディがつけられることがわかってうれしかった。 ○他の時にも二人でやってみたらよいと思った。

- 「こういうところがすごいよ」と言われたことがうれしかった。
- 自信がもてた。

②グループでの音楽づくりをして、よかったことやうれしかったことは何か。

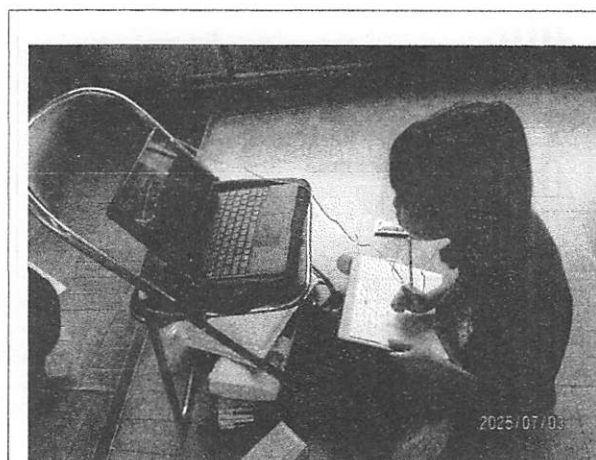
- 音符を重ねたらきれいになった。
- 他のメロディを聴くことができた。
- 友だちとの絆が深まった。
- 自分に足りない部分を教えてもらえた。
- 自分の意見にもっといい考えを出してくれていい音楽ができた。
- 色々な音が浮かんできた。
- 音の上がり下がり工夫していい曲ができた。
- 協力できた。
- みんなでがんばれた。
- みんなで真剣にやれた。
- きれいで楽しい曲がくれた。
- みんなできれいな曲がくれた。
- じょうずに発表できた。
- よくわからなかった友だちが演奏できるようになった。
- 一人一人の音楽がよくなって、全体的にもよくなった。
- どうやってつなげたらよいかを考えて、やってできた時が一番うれしかった。
- 少しうまく演奏できるようになった。
- 最初は難しくて無理だと思っていたけれど、途中からやる気が出てきて最後までがんばれた。
- 発表が成功したことをほめてもらってうれしかった。
- みんな違う個性があってよかった。
- グループで話し合うことでいい曲になった。
- 工夫をすると面白い。

③この学習をして、できるようになったことやわかったことは何か。

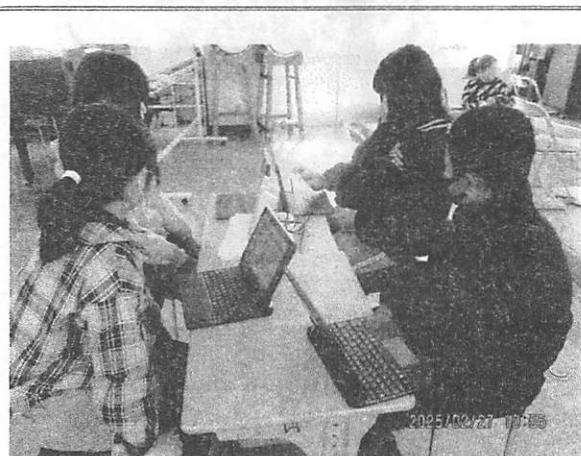
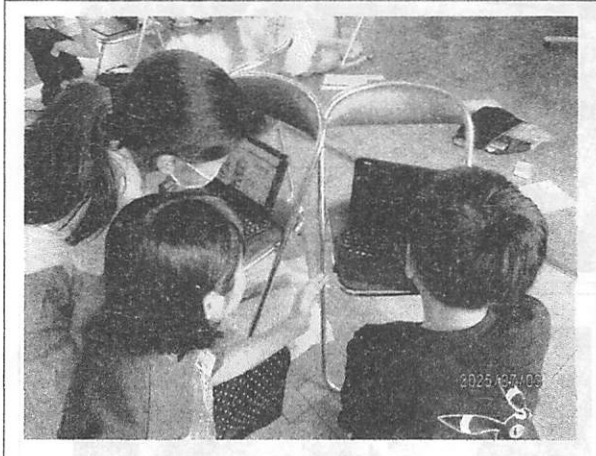
- 音階を使うことでその雰囲気音楽がつかれる。
- 曲には決まった音階がある。
- 「ソーラン節」決まった音でつくと「ソーラン節」のようになる。
- 決まった音階なら、自分が好きな音に変えても自分が選んだ曲の雰囲気が残る。
- 色々な音階を知った。
- 「レ」と「ラ」をなくすと日本みたいになる。(沖永良部島の場合)
- 日本らしいメロディは、使う音がある。
- 最後は、音階の一番低い音を使うと終わりの雰囲気になる。
- 音の重なりに気を付けるようになった。
- 楽しくわくわくする曲がくれた。
- 和風な感じの曲ができた。

- 少しさびしい感じの曲にできた。
- 旋律をつなげた時に、変な感じにならないように工夫できた。
- 旋律をつなげる順番を考えることができた。
- 一人で演奏する時にも自信をもってできるようになった。
- どんな音にしたらきれいな音になるかを考えられるようになった。
- きれいにメロディをつくるには、まとまりが大切と知った。
- 日本の音楽をつくる想像力がわいてきた。
- カッコいい感じの曲がつくれた。
- 思い通りに日本らしい和風な曲ができた。
- 思い通りの楽しい曲がつくれた。
- みんなと新しいものをつくれた。
- おしとやかな曲がつくれた。
- 素敵な曲がつくれた。
- みんなの意見を合わせていい曲がつくれた。
- 作曲家になった気分になれた。
- いい音楽ができた。

<個々に旋律をつくっている様子>

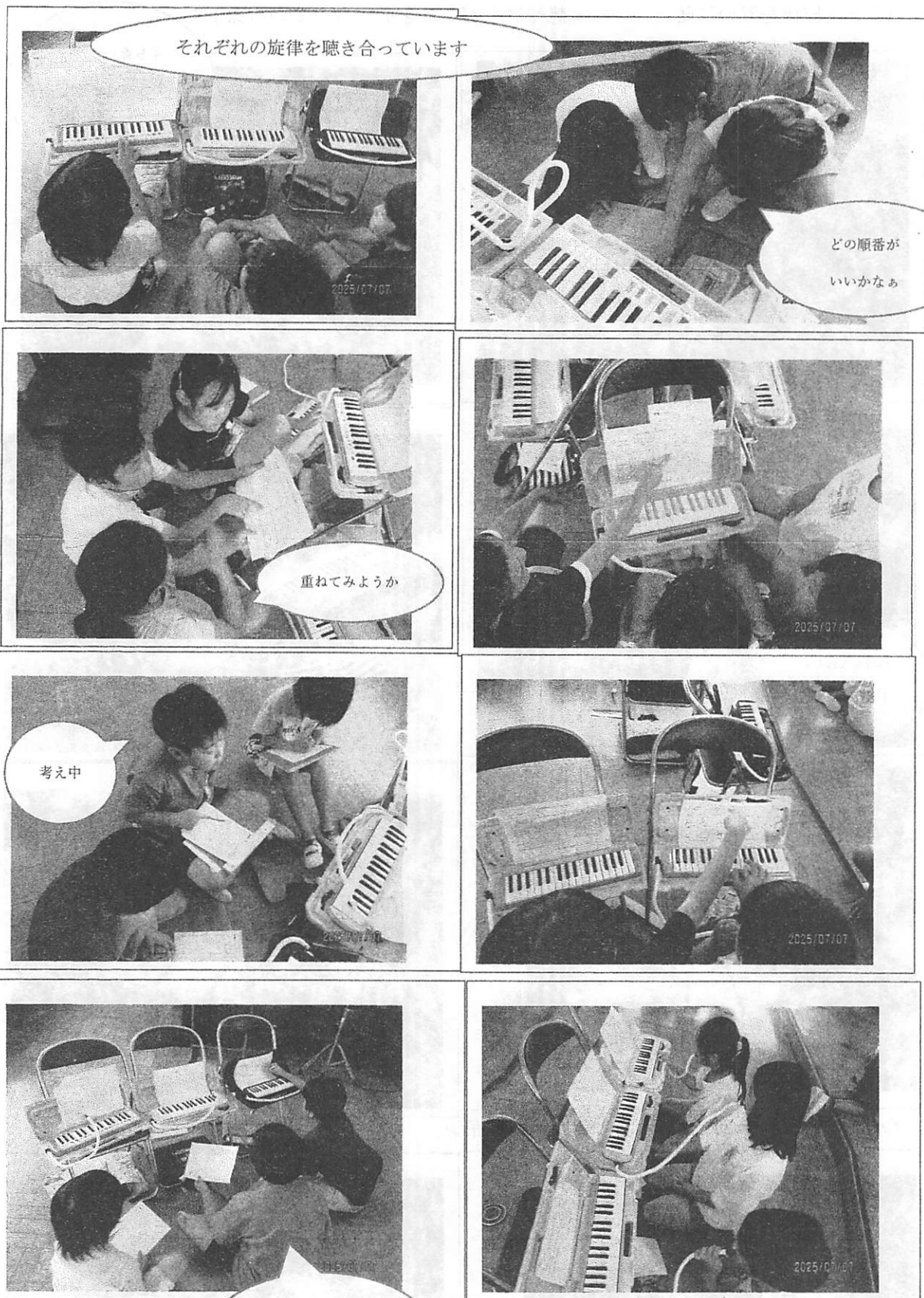


<つくった旋律を互いに聴き合い、感想やアドバイスを伝え合っている様子>



<グループで旋律をつなげたり重ねたりする様子>





それぞれの旋律を聴き合っています

どの順番が
いいかなあ

重ねてみようか

考え中

最後を終わる感じの
音に変えてみよう

試してみよう

<児童のワークシート>

個人の旋律の記録

もとにする音階をえらんでせんりつをつくろう

もとにする音階(さくら さくら)

どんな感じのせんりつをつくりたいですか すこしさびしい感じにしたい

(拍) ♡ ♡ ♡ ♡ ♡ ♡ ♡ ♡

メロディ	① ド シ ラ ファ	② シ ラ ① ラ
音の上がり下がり		
メロディ	③ ニ ド* シ ラ	④ ① ファ ① ニ
音の上がり下がり		

どんな感じのせんりつができましたか(すこしさびしい感じにできました。)

やさしく
なな
らかにできました。

もとにする音階をえらんでせんりつをつくろう

もとにする音階(さくら さくら)

どんな感じのせんりつをつくりたいですか 流れる感じにしたい

(拍) ♡ ♡ ♡ ♡ ♡ ♡ ♡ ♡

メロディ	① シ ラ ド ミ	② ド シ ラ シ 休
音の上がり下がり		
メロディ	③ シ ラ ド ミ	④ ド シ ラ シ 休
音の上がり下がり		

どんな感じのせんりつができましたか(流れる感じに日本風に仕上がった。)

④ すごく和風 素敵な感じがする

⑤ さくらさくらの音がよく出てきたのは正解だった

This micrograph shows a cross-section of a polymer matrix with dispersed particles. The matrix is a light gray, granular material, and the dispersed particles are darker, irregularly shaped regions scattered throughout the matrix.

Handwritten musical notation on two staves. The notation consists of a series of notes and rests, written in a simple, somewhat informal style. The first staff begins with a treble clef and a key signature of one flat (B-flat). The notes are mostly quarter and eighth notes, with some rests. The second staff continues the melody, also featuring quarter and eighth notes. The handwriting is clear but shows some signs of being a student's work, with some ink bleeding and slightly irregular note shapes.

ラ	1
グ	1
シ	0.5
ド	0.5
ラ	1
フ	0.5
ミ	0.5
ラ	1
ン	1
休	0

グループの辛辛の記録

ともだちのせんりつを つなげたり重ねたりして グループの音楽を完成させよう

もとにする音階〔中永良部の子もり歌〕

① ツミツツ ② フフフ ③ ツミツツ ④ トトト

さんとわたしのせみりつ
 をあわせた。

グループの音楽をつくった感想を書きましょう。

1人1人がつくったせんりつをみんなで聞き合い話し合っ、て決めるのが楽しかった。
グループでの音楽があるのはとてもうれしい。

ともだちのせんりつを つなげたり重ねたりして グループの音楽を完成させよう

もとにする音階【沖永良部】

- ① シミファミ ドミソ
- ② ミファミ ソシド
- ③ ミファミ ソシド
- ④ ドシソファミド

グループの音楽をつくった感想を書きましょう。

・みんなが意気込みを出し合ってつなげたり重ねたりして、本当に作曲家になったような気分になれた。

③の重ねる時にりょうたさんが最後の音の下がそうっていいねと言ったのがいいと思いました。

学習シート

ママーラン節

ソラ ソラ シララ ソラソラソ
111 11 111 111 111 1056

ソ
1

最後
ママーラン節

学習シート

ママーラン節

ソラ ソラ シララ ソラソラソ
111 11 111 111 111 1056

ソ
1

2回くりかえす。

<引用文献>

文部科学省（平成 29 年 3 月）『小学校指導要領解説（音楽編）』東洋館出版社

<参考文献>

文部科学省ホームページ「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

千葉県教育委員会ホームページ「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム

注) Scratch について

Scratch は、MIT メディア・ラボのライフロング・キンダーガーデン・グループの協力により、Scratch 財団が進めているプロジェクトです。<https://scratch.mit.edu> から自由に入手できます。

scratch - 検索 x Scratch - Imagine, Program, Share x

https://scratch.mit.edu/projects/editor?tutorial=getStarted

Scratch! 設定 ファイル 編集 チュートリアル Debug Scratch!に参加しよう サインイン

コード コスチューム 音

動き

- 10 歩動かす
- 15 度回す
- 15 度回す

イベント

- どこかの場所へ行く
- x座標を -197、y座標を -130 にする
- 1 秒で どこかの場所へ行く
- 1 秒でx座標を -197 に、y座標を

ブロック定義

- 90 度に向ける
- マウスのポインターへ向ける
- x座標を 10 ずつ変える
- x座標を -197 にする
- y座標を 10 ずつ変える

音楽

音符は1~10までの数字をつかう

ミ ミ ミ ミ ミ ラ ミ ミ
ファ ファ ファ ファ シ ファ ファ ファ
ラ ラ ラ ラ ラ ファ ラ ラ
シ シ シ シ シ シ シ
ド ド ド ド ド ド ド
ミ ミ ミ ミ ミ ミ ミ

拍は、0.25~4までの数字を調う
-0.25は1.6分音符 -0.5は八分音符 -1は四分音符
-2は二分音符 -4は全音符 の長さ

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
1 1 1 1 1 1 1 1 1
0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5

開始 5 秒後取ったとき

楽器を (20) シンセリードにする

2 包絡力減す

5 の音符を 1 拍鳴らす
シ の音符を 1 拍鳴らす
ド の音符を 1 拍鳴らす
ミ の音符を 1 拍鳴らす
ド の音符を 1 拍鳴らす
シ の音符を 0.5 拍鳴らす
ラ の音符を 0.5 拍鳴らす
シ の音符を 1 拍鳴らす
1 拍休む

音の長さ

○ = 2 ● = 1.5 ◐ = 1 ◑ = 0.5
= 四分休符 = 1 休む

カウント 0

スプライト

Monkey

表示する

大きさ 60 向き 90

Monkey F3 F#3 G3 G#3 A3 A#3 B3 C4 C#4

ステージ

背景 1

対白 25% 音相

2025/07/08